

特別支援教育 2・3・4・6学年 国語科学習指導案

指導者 沼田 誠 司

I 単元名

「ひつような じょうほうを でんわできこう つたえよう 」(話すこと・聞くこと)

II 単元の指導構想

1 単元について

本学級は、2年生1名、3年生1名、4年生1名、6年生3名の計6名で編成されている。このうち6年生1名は、通常の学級において交流及び共同学習を実施している。

本学級に在籍する子どもたちの「話すこと・聞くこと」にかかわる実態について、担任及び子どもたちの学習にかかわる教職員、保護者による日常観察、本校特別支援教育学団の「行動特性チェックリスト」、「国語科指導系統表」、各種検査から、次のように捉えた。

子ども	「話すこと・聞くこと」にかかわる実態 (日常観察)			
	話すことにかかわる実態	聞くことにかかわる実態	話し合うことにかかわる実態	
A (2年)	特	挨拶を受けることで、自分も挨拶をすることができる。 休日の出来事を自分から教師に伝える。 気持ちを友達にうまく伝えられず、気持ちがすれ違う。 授業中の発言は少ないが、自信がもてると自分から発表する。 声が小さく、発表の声が相手に聞こえないことがある。 会話で気持ちを伝えることのよさを実感できていない。	注意を促すことで話している人を見て聞くことができる。 集中して聞くことで、先生や友達の話の内容を理解することができる。	友達の考えと自分の考えを比べることは課題である。
	交	交流学級での健康観察において、返事をすることができる。 友達の問いかけに対して答えることができる。 集会活動において友達に話しかけることは少ない。	集会活動で先生や友達の話を静かに聞くことができる。 先生の指示を聞き、活動をする。	話し合いの機会が少ない。
	保	姉とよく話をする。 自分がしたいことを伝えることができる。	登校の準備をするように言われてもすぐに行動することができない。	話し合いの機会が少ない。
B (3年)	特	学団や学級の友達の前で元気に話すことができ、授業中の発言が積極的である。 発表の際に話している途中で着席しようとするところがある。 自分の考えをまとめて話すことに時間を要する。 困った時に「分かりません。」などと教師や友達に声をかけることができず、黙っているところがある。 主語と述語がねじれるところがある。	相手を見て真剣に話を聞こうとする。 指示をよく聞いて、すばやく行動に移す。 発問の意味を一度で理解することが難しいところがある。	答えるものが決まっていると、自分の考えを発表することができない。
	交	交流学級の友達に話かけられると笑顔で返答する。 朝の会の司会をすることができる。	集会活動でのゲームでは、ルールの説明をよく聞いて守ることができる。	静かに話し合いの様子を聞いている。
	保	さ行の言葉の発音が不明瞭でた行になる。 学校外で友達に会うと恥ずかしがって話すことができない。	お手伝いなどの作業内容をよく聞いて、上手に手伝ってくれる。	自分の希望を話すことができる。
C (4年)	特	係の仕事や朝の会の司会を行う際に大きな声で話す。 授業中の発表において、積極的に挙手して発表する。 行事の振り返りとして楽しかったことや頑張ったことを自分で考えることができ、話す順番を教師と一緒に確認する。 友達や下級生にアドバイスをしたいという気持ちが強く、気が付いたことを注意する。 困った時や友達と気持ちのすれ違いになった時に落ち着いて自分の気持ちを話すことが苦手である。	周囲に気を取られて話を聞くことができないところがある。 注意を促すことにより、話す相手を意識して話を聞くことができる。 指示の理解が不十分で、友達の様子を見て行動することがある。	自分の意見を話さず聞かせることは課題。 友達の意見と関わらせることは課題。
	交	友達から挨拶を受けると笑顔で返すことができる。 交流学級において健康観察をする際に緊張して声が小さい。 担任以外の職員からの問いかけに「はい。」「いいえ。」と返答できる。	担任以外の職員から話しかけられた内容を理解することができる。	話し合う機会が少ない。
	保	困った時に自分の思いを話せないところがある。 友達が使っている言葉の意味を十分に理解せずにまねて話す。	相手の話を十分に聞かずに自分のことを話すところがある。	自分の要求を強く伝えてくる。
D (6年)	特	自分の考えを積極的に発表することができる。 自分が経験した出来事をゆっくりと順番に話す。 語彙が少ないため、伝えたいことを的確に伝えるために教師からの補足や確認が必要である。 自分の要求を伝える際に順序立てて話すことが課題である。 相手や場に応じて、話し方や言葉遣いを工夫することが課題。 発表の際に定型的な表現が多い。	朝の会で1日の目録を聞いて、内容を理解し、学習の見通しをもつことができる。 促されることで、友達の意見を集中して聞くことができる。	自分の考えを話すことができる。 友達の考えと関わらせることは課題。
	交	朝掃除の振り返りにおいて、自分から挙手して話すことができるようになってきている。 集会活動では、少しずつ自分から挙手することができるようになってきている。	各行事のオリエンテーション等において、活動のねらいや見学の仕方を聞いて理解することができる。	話し合いの様子をよく聞いている。
	保	気持ちが高ぶると静かにしなければいけない場所でも、大声で話すところがある。	相手の気持ちを考えたり、想像したりしながら聞くことが課題である。	意見が話題とずれるところがある。
E (6年)	特	学団や全校の前で自分の考えを積極的に発言する。 誰とも明らかなに話をするところがある。 自分が困っていることや要求を周囲の大人に伝えることができる。 考えがまとまる前に挙手をして、指名されてから考えて話すため、話のまとまりに欠け、長くなる。 語彙が少なく、自分の考えを説明する際に時間を要する。	友達の話を聞いて、内容を大まかに理解することができる。 話を称賛の拍手を送ることができる。 話を聞く際に、傾きながら聞く。 周囲に注意が向き、大切なポイントを聞き逃すところがある。	友達の意見を聞いて、自分の考えをつなげることができる。
	交	交流学級における朝の会や授業中にも意欲的に発言をする。 楽しい気持ちが高まり雰囲気そぐわない発言をすることができる。 担任以外の職員や交流学級の友達との会話を楽しんでいる。	交流学級の担任の指示を聞いて、整列をしたり、行動をしたりすることができる。	発表に積極的である。
	保	学校での学習や友達の様子について家庭でたくさん話す。 みんなの前で張り切って話すことができる。 時と場に合わない発言をすることができる。	聞いたことを忘れるところがあるので、確認することが必要である。	相手の思いを考えて話すことができる。

国語
社会
算数
理科
生活
音楽
図画工作
家庭
体育
外国語
道徳
総合
特別活動
特別支援

行動特性チェックリスト

領域	下位項目	A	B	C	D	E	具体内容	
学びの姿勢	聴覚選択	2	3	2	3	2	1 物音（重要でない細部）などに注意が逸れてしまい、教師の支援により一時的に喚起できる。 2 物音（重要でない細部）などに注意が逸れてしまうが、教師の支援により喚起できる。 3 物音（重要でない細部）などに注意が逸れるが、課題への影響は少ない。 4 物音（重要でない細部）などに注意が逸れずに、課題を捉えることができる。	
	視覚選択	2	3	2	3	3	1 視覚情報（重要でない細部）などに注意が逸れてしまい、教師の支援により一時的に喚起できる。 2 視覚情報（重要でない細部）などに注意が逸れてしまうが、教師の支援により喚起できる。 3 視覚情報（重要でない細部）などに注意が逸れるが、課題への影響は少ない。 4 視覚情報（重要でない細部）などに注意が逸れずに、課題を捉えることができる。	
	聴覚的深さ	3	2	2	3	2	1 聞いたことをすぐに忘れてしまう。 2 聞いたことの一部は覚えているものの、重要情報の欠落や誤選択が見られる。 3 聞いたことを一時的に覚えていることができる。 4 聞いたことを一時的・長期的に覚えていることができる。	
	視覚的深さ	2	2	1	3	2	1 見たことをすぐに忘れてしまう。 2 見たことの一部は覚えているものの、重要情報の欠落や誤選択が見られる。 3 見たことを一時的に覚えていることができる。 4 見たことを一時的・長期的に覚えていることができる。	
	ペース	1	3	2	3	2	1 教師の支援の有無にかかわらず、せっかちや過度に遅い取り組みがある。 2 教師の支援により、活動のペースを一時的に修正することができる。 3 教師の支援により、安定した活動のペースにすることができる。 4 常に安定したペースで取り組むことができる。	
	自力	2	3	2	3	3	1 活動への集中のために、教師の支援が常に必要である。 2 教師の支援によって、様々な活動に集中して取り組むことができる。 3 一時的に教師から離れて、様々な活動に集中して取り組むことができる。 4 自ら様々な活動に集中して取り組むことができる。	
	規則性	3	3	3	4	3	1 教師の支援を受けながら決まりきった状況への対応をすることができる。 2 友達とともに、決まりきった状況へ正確に対応することができる。 3 決まりきった状況へ誤りがあるものの対応をすることができる。 4 決まりきった状況へ正確に対応することができる。	
	困難場面への緊張	1	1	1	2	2	1 困難・葛藤場面で緊張し、行動に反映する。 2 困難・葛藤場面で緊張するが、教師の支援により行動への反映は少ない。 3 困難・葛藤場面で緊張するが、行動に反映しない。 4 困難・葛藤場面で緊張しない。	
	集団への緊張	3	1	1	2	4	1 集団内で緊張し、行動に反映する。 2 集団内で緊張するが、教師の支援により行動への反映は少ない。 3 集団内で緊張するが、行動に反映しない。 4 集団内で緊張しない。	
	場所への緊張	2	1	1	2	3	1 特定の場所や慣れない場所に緊張し、行動に反映する。 2 特定の場所や慣れない場所に緊張するが、教師の支援により行動への反映は少ない。 3 特定の場所や慣れない場所に緊張するが、行動に反映しない。 4 どのような場所でも緊張しない。	
目的意識	想起	3	3	2	3	3	1 体験（成功・失敗・懲罰）を思い出せない。 2 教師の支援により体験を振り返ることができるが、活動に生かすことができない。 3 教師の支援により体験を振り返ったり、活動に生かしたりすることができる。 4 自ら体験を生かすことができる。	
	学習目的	2	3	2	3	3	1 教師の支援を受けても、目的や楽しみを見出すことができない。 2 教師の支援により、活動中あるいは活動後の楽しみを見出すことができる。 3 教師の支援により、目的や楽しみを見出すことができる。 4 自ら目的や楽しみを見出すことができる。	
	生活	3	3	3	3	3	1 学習内容にかかわる生活体験やニーズがない。 2 学習内容にかかわる生活体験やニーズが以前にある。 3 学習内容にかかわる生活体験やニーズがある。 4 学習内容にかかわる生活体験やニーズがあり、自ら問題意識をもっている。	
意味付け・価値付け	生活への意味付け	2	2	2	2	3	1 教師の支援があっても、生活とのかかわりを意識することができない。 2 教師の支援により生活とのかかわりを意識し、それに応じた行動をすることができる。 3 自ら生活とのかかわりを意識することができるが、そぐわなかったり活動が伴わなかったりする。 4 自ら生活とのかかわりを意識し、それに応じた活動や用意をすることができる。	
	活動への意味付け	2	2	2	2	3	1 教師の支援による結果予測を理解することができない。 2 教師の支援による結果予測に応じて、活動することができる。 3 自ら結果を予測するが、そぐわなかったり活動が伴わなかったりする。 4 自ら結果を予測し、それに応じた活動や用意をすることができる。	
	活動への価値付け	1	2	1	2	2	1 教師の支援により、一つ一つの活動に取り組むことができる。 2 教師の支援により、次なる活動を念頭に置きながら、目の前の活動に取り組むことができる。 3 教師の支援により、複数の活動への価値を感じながら取り組むことができる。 4 自ら、複数の活動を価値付けて取り組むことができる。	
学習方法	問題対応	活動目的	2	2	2	3	3	1 教師の支援を受けても、目的を感じながら活動できない。 2 教師の支援により、目的を感じながら活動できる。 3 教師の支援により、目的を見つけて活動できる。 4 目的から活動を自ら見つけ、持続させながら課題に取り組むことができる。
		確認	3	3	1	3	3	1 しばしば不注意による間違いや失敗がある。 2 時折不注意によるまちがいや失敗がある。 3 不注意による間違いや失敗があるが、本質的なものに支障がない。 4 不注意による間違いや失敗がない。
		手がかりの拡散	2	2	2	3	2	1 教師の支援を受けても、別の方法に取り組むことができない。 2 教師の支援により、別の方法に取り組むことができる。 3 教師の支援により様々な方法を検討し、その中の一つに取り組むことができる。 4 自ら様々な方法を検討し、多様な方法に取り組むことができる。
		手がかりの収束	1	1	1	2	1	1 教師の支援により、よりよい手がかりを受け入れることができる。 2 教師の支援により2つの手がかりを検討したり、試してみたりした結果、一つに収束することができる。 3 教師の支援により様々な手がかりを検討したり、試してみたりした結果、一つに収束することができる。 4 自ら様々な手がかりを検討したり、試してみたりした結果、一つに収束することができる。
		興味	3	3	3	4	4	1 興味・関心のあるものが見当たらない。 2 学習活動以外に有効な興味・関心がある。 3 学習活動に有効な興味・関心がある。 4 学習活動に有効な興味・関心があり、活用したいという意識がある。
	集団との関わり	感情の伝達・理解	2	3	3	3	3	1 文脈や態度を意識した行動（話すことを含む）をとることができない。 2 誇張した文脈や態度のいずれかから感情を理解し、行動（話すことを含む）をとることができる。 3 文脈や態度のいずれかから感情を理解し、行動（話すことを含む）をとることができる。 4 文脈や態度を予測し、行動（話すことを含む）をとることができる。
		協調性	3	4	3	3	4	1 一人での活動に固執する。 2 教師と一緒に活動する。 3 定型的あるいは、教師の支援により他者との活動をする。 4 他者の状況を考え活動と共にし、場合によっては協力する。
		遊び	2	3	3	3	4	1 気に入った物のみを使って遊ぶが、固執したりなめたりし、奇異にみえる。 2 気に入った物のみで、使用目的に合わせて遊ぶ。 3 教師等から提示された物を使って遊ぶ。 4 自分から様々なものに働きかけて遊ぶ。
		ゲーム	2	4	2	3	4	1 教師の支援を受けて、ゲームに参加することができる。 2 教師の支援を受けてゲームに参加し、勝ちを喜ぶことができる。 3 教師の支援を受けて、ゲームの勝敗を意識して参加することができる。 4 ゲームの勝敗を意識して参加し、敗れなくても価値を見出すことができる。
		賛辞	2	4	2	3	4	1 他者のよさを認めることができない。 2 教師の支援により、他者のよさに拍手をおくる。 3 周囲の状況をとらえて、他者のよさに拍手をおくる。 4 自ら拍手あるいは、賛辞をおくる。

- 小学校学習指導要領改訂の経緯及び基本方針を受け、国語で育成を目指す資質・能力は、「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」とある。国語科で身に付ける言語能力は、全ての学習の基盤となり、生活においても必要不可欠な能力である。またこれらの力のうち、(話すこと・聞くこと)の力については、人間の多様性や様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことにつながる。例えば子どもたちは、どんな順序で話せば相手に伝わるか、相手はどんな考えをもっていて、自分、それに対してどう思うのかといった見方・考え方を働かせて他者とかかわり、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりすることで、他者と円満な関係を築き、様々な困難場面で、周りの支援を受けながら、社会的自立していくことができる。以上のことから、自分たちが必要とする情報を他者から聞き出す学習をすることで、相手の立場に立って考えるとどんな話し方をするとよいか、必要な情報をいかに正確に聞きとり生かすかといった視点で物事を考える本教材は、子どもたちがこれまでの経験や推測を基に見方・考え方を働かせ、必要感をもって学習に取り組むことで、自己の資質・能力を高めていくために適した教材であると考ええる。
- 本領域の学習は、生活単元学習「校内合宿をしよう」の内容と関連している。課題を解決するために様々な要素があるため、学習する上で困難さを感じる領域でもある。そこで、先に述べた子どもたちの実態に応じて、個別の目標を設定し、子どもにあった学習材や学習形態を工夫することで、子ども自身が自己の学びの状況を捉えながら、段階的に学習を進められるようにしたい。また、子どもたちが、主体的に友達とかかわり合いながら学びを深めることができるよう、生活単元学習や実生活と結びつく学習課題の設定やかかわりが必要不可欠な学習展開にしたい。以上のように、子どもたちの実態と「話すこと・聞くこと」の系統性を大切にしながら、単元を通して、実生活と結びつける振り返りを繰り返し行うことで、課題を自分事として捉え、連続的な学びへとつながっていくようにしたい。

2 復興教育(3つの教育的価値)との関連

- かかわる「⑨自分と地域社会」とのかかわり

相手の立場に立って話をしたり質問をして聞いたりすることで、相手意識をもって人と関わることを学んだり、困ったときに支えを求めることについて学んだりする。

Ⅲ 単元の指導構想

1 本単元の目標

子ども	本単元にかかわる実態	本単元の目標			実生活とのつながり
		①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③学びに向かう力・人間性	
A	<ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさが小さく相手に伝わらないことがある。 ・話したいという願いをもったときに意欲的に話すことができる。 ・話す内容について自信をもつことができた時に発表する意欲が高まる。 	①	相手に伝えるために適切な声の大きさが分かる。		学団での学習の際、教室、プレールーム、体育館などの場所に合った声の大きさを話すことができる。
		②	相手に合った声の大きさを考えて話すことができる。		
		③	挨拶やお礼の言葉を伝える目的をもって電話で伝えようとする事ができる。		
B	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取ったことの中で大切なことを選択することが課題。 ・言葉の発音が不明瞭なことがある。 ・困った時に声に出して尋ねたり、自分の言葉で話しかけたりすることが苦手である。 ・主語と述語がねじれることがある。 	①	知りたいことが何かに集中して電話の内容を聞くことができる。		朝の会の際に各授業の場所を集中して聞き取ることができる。
		②	知りたいことの中心を確実に聞き取り、メモをすることができる。		
		③	初めて話す相手に自分から声をかけて知りたいことを尋ねることができる。		
C	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の言葉を十分に聞かず自分が話してしまい、話の内容が分からなくなることがある。 ・緊張したり、困難があったりする場面で自分の伝えたいことを十分に伝えることができない。 ・話し方の型があると自信をもって話すことができる。 	①	知りたいことを尋ねたいときの声のかけ方が分かる。		係活動として、朝の会の前に生活単元学習、音楽、体育、作業に必要な学習用具や学習の場所を担任に尋ねることができる。
		②	知りたいことに応じて、どんな尋ね方をすればよいか考えることができる。		
		③	知りたいことがあったときに自分から周囲の人に尋ねて解決しようとする事ができる。		
D	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉が少なく、伝えたいことを表現するために教師の補足が必要である。 ・相手に伝えるためにどんな順番で話すときよいか考えることの力が十分ではない。 ・相手と場に応じた言葉遣いの仕方が課題である。 	①	質問の電話をする際に、順序に気を付けて話すことで効果的に回答を得ることが分かる。		自分の気持ちや考えを伝えるために話す順番を考えて話すことができる。
		②	知りたい情報を得るために、どんな順番で話すときよいか考えることができる。		
		③	下級生が考えた質問を位置付けながら、協力して質問の原稿を作成することができる。		
E	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを伝えるために、話す内容を分かりやすくまとめられるようになることが課題である。 ・課題を解決することに意欲的である。 ・聞き取りの際に周囲に注意が向いてしまい、理解が不十分なことがある。 ・友達の学びの様子を見て称賛するなど、友達に思いやりの心をもって接することができる。 	①	事前に知りたいことを整理して、尋ねることで効果的に回答を得ることが分かる。		係活動として、翌日の授業の日程と必要な持ち物等の連絡を担任から聞き、帰りの会において、学級の友達に伝えることができる。
		②	知りたいことが何かを意識し、電話の内容を注意深く聞き、分かったことをメモすることができる。		
		③	友達と聞き取りメモを確認しながら、協力して分かったことをみんなに伝えることができる。		

2 学びのつながり

子どもたちはこれまでに、その子どもの実態に応じた内容や話し方で自分の体験を話したり、友達の話の聞き、興味のあることを質問したりする学習をしてきた。その際、最後まで話を聞いてもらえると嬉しいことや、話を聞いてもらうためにはよい話し方があること、話を聞くことは自分にとって有益であることなどを感覚的に掴んでいく。

本単元では、「よい話し方や聞き方があるようだ」といった抽象的な子どもたちの見方・考え方をより具体的に、話す順序や話す声の大きさ・速さ、聞く際にどの言葉に注目するのかといった見方・考え方を働かせて学習を展開していく。

子どもたちは、今後、本単元で身に付けた資質・能力を、分からないことを質問する際や、自分が話したいことを他者に伝える際に活用し、自己の学習や生活をよりよいものにしていくと考える。

3 単元の指導計画（6時間）本時は第5時

時間	A	B	C	D	E
	各時間の学習内容				
	働かせる見方・考え方 ※研究に関わる手立て 【評価方法】				
1	生活単元学習「校内合宿」を行うために必要な情報を施設の方に電話で聞くことを確認する。模擬電話を通して、電話をかけるために必要な方や準備について考え、学習計画を立てる。 電話をする人にははっきりと伝えていきたいな。 電話をして伝えるために話し方の工夫が必要であることに気付く。【発言（思・判・表）】	※手立て2-① 校内合宿と関連させ、単元を貫く課題意識を醸成する。 どう尋ねたら聞きたいことについて書えてくれるのらう。 電話をして伝えるために話し方の工夫が必要であることに気付く。【発言（思・判・表）】	※手立て2-② 各自の役割を果たすためにそれぞれの役割ごとに上級生からアドバイスをする。※2-③学習の成果の実感 メモの書き方を知り、短文を聞いて必要事項をメモに書く。 メモを書くとき、大切なことを短く書く。 尋ねたいことをメモするポイントに気付くことができる。【学習シート（思・判・表）】	※手立て2-④ 目的達成のためにそれぞれ役割ごとに尋ねたいことを話す。 知りたいことを聞く尋ね方をすべし。 尋ねたいことを答えてもらおう質問文を話すことができる。【学習シート（思・判・表）】	※2-①②③学習の成果の実感 メモの書き方を知り、短文を聞いて必要事項をメモに書く。 メモには、大切なことを短く書く。 尋ねたいことをメモするポイントに気付くことができる。【学習シート（思・判・表）】
2	教師の手本を聞いて、電話のかけ方を知り、必要な情報を尋ねるための話し方や構成の仕方を考える。声の大きさに気を付けて、物の名前を話す。 口を大きく開けるとはっきり話せよう。息をたぶぷり吸うと大きな声が出せるよ。 適切な声の大きさと物の名前を話すことができる。【発表（知・技）】	※手立て2-② 各自の役割を果たすためにそれぞれの役割ごとに尋ねたいことを答えてもらおう質問文を考える。 知りたいことがこれだからこう尋ねよう。 尋ねたいことを答えてもらおう質問文を考えることができる。【学習シート（思・判・表）】	※手立て2-④ 目的達成のためにそれぞれの役割ごとに尋ねたいことを話す。 知りたいことを聞く尋ね方をすべし。 尋ねたいことを答えてもらおう質問文を話すことができる。【発表（思・判・表現）】	※手立て2-④ 目的達成のためにそれぞれの役割ごとに尋ねたいことを答えてもらおう質問文を考える。 知りたいことがこれだからこう尋ねよう。 尋ねたいことを答えてもらおう質問文を考えることができる。【学習シート（思・判・表）】	※2-①②③学習の成果の実感 メモの書き方を知り、短文を聞いて必要事項をメモに書く。 メモには、大切なことを短く書く。 尋ねたいことをメモするポイントに気付くことができる。【学習シート（思・判・表）】
3	それぞれの役割に応じて、話し方、質問原稿の構成の仕方、メモの取り方について考える。口の開き方と声の大きさに気を付けて、挨拶やお礼を話す。 電話の相手に挨拶やお礼を伝えたいな。 適切な声の大きさと挨拶やお礼を話すことができる。【発表（知・技）】※2-③前時と同じ	※手立て2-② 目的達成のためにそれぞれの役割ごとに尋ねたいことを答えてもらおう質問文を考える。 知りたいことを聞く尋ね方をすべし。 尋ねたいことを答えてもらおう質問文を話すことができる。【学習シート（思・判・表）】	※手立て2-④ 目的達成のためにそれぞれの役割ごとに尋ねたいことを答えてもらおう質問文を考える。 知りたいことを聞く尋ね方をすべし。 尋ねたいことを答えてもらおう質問文を話すことができる。【発表（思・判・表現）】	※手立て2-④ 目的達成のためにそれぞれの役割ごとに尋ねたいことを答えてもらおう質問文を考える。 知りたいことがこれだからこう尋ねよう。 尋ねたいことを答えてもらおう質問文を考えることができる。【学習シート（思・判・表）】	※2-①②③学習の成果の実感 メモの書き方を知り、短文を聞いて必要事項をメモに書く。 メモには、大切なことを短く書く。 尋ねたいことをメモするポイントに気付くことができる。【学習シート（思・判・表）】
4	役割演技を通して、お互いの役割の進め方について話し合う。※手立て2-② 知りたいことを明らかにするために各自の役割について意見交換をする。原稿をもとにして、電話の役割演技をする。 相手にも聞き逃したときは、繰り返し聞き取りたいことを伝える。 適切な声の大きさと自分の名前や目的を話すことができる。【発表（知・技）】	※手立て2-② 目的達成のためにそれぞれの役割ごとに尋ねたいことを答えてもらおう質問文を考える。 知りたいことを聞く尋ね方をすべし。 尋ねたいことを答えてもらおう質問文を話すことができる。【学習シート（思・判・表）】	※手立て2-④ 目的達成のためにそれぞれの役割ごとに尋ねたいことを答えてもらおう質問文を考える。 知りたいことを聞く尋ね方をすべし。 尋ねたいことを答えてもらおう質問文を話すことができる。【発表（思・判・表現）】	※手立て2-④ 目的達成のためにそれぞれの役割ごとに尋ねたいことを答えてもらおう質問文を考える。 知りたいことがこれだからこう尋ねよう。 尋ねたいことを答えてもらおう質問文を考えることができる。【学習シート（思・判・表）】	※2-①②③学習の成果の実感 メモの書き方を知り、短文を聞いて必要事項をメモに書く。 メモには、大切なことを短く書く。 尋ねたいことをメモするポイントに気付くことができる。【学習シート（思・判・表）】
5 本時	施設に電話をして、知りたい情報を尋ねる。電話で挨拶の文やお礼を話す。 声を大きくはっきりと話そう。 評価規準は、本時の指導計画に記載	※手立て2-② 知りたいことを明らかにするために各自の役割について意見交換をする。電話で知りたことを尋ねる。 聞きたいことの尋ね方に気を付けて話そう。 評価規準は、本時の指導計画に記載	※手立て2-④ 目的達成のためにそれぞれの役割ごとに尋ねたいことを答えてもらおう質問文を考える。 知りたいことを聞く尋ね方をすべし。 尋ねたいことを答えてもらおう質問文を話すことができる。【発表（思・判・表現）】	※手立て2-④ 目的達成のためにそれぞれの役割ごとに尋ねたいことを答えてもらおう質問文を考える。 知りたいことがこれだからこう尋ねよう。 尋ねたいことを答えてもらおう質問文を考えることができる。【学習シート（思・判・表）】	※2-①②③学習の成果の実感 メモの書き方を知り、短文を聞いて必要事項をメモに書く。 メモには、大切なことを短く書く。 尋ねたいことをメモするポイントに気付くことができる。【学習シート（思・判・表）】
6	学級で聞き取った内容を学団の友達に報告する。誰に、何を聞いたかを報告する。 グループは広いので、電話よりもっと大きな声を出そう。 会場の大きさに相応しい声の大きさを発表することができる。【発表（知・技）】	※手立て2-② 聞き取った内容が十分に伝え、他の学級からの報告をメモする。 他の学級は、どこに連絡をして何を聞いたのか。 他の学級が調べた内容を聞き、メモすることができ。【学習シート（思・判・表）】	※手立て2-④ 目的達成のためにそれぞれの役割ごとに尋ねたいことを答えてもらおう質問文を考える。 知りたいことを聞く尋ね方をすべし。 尋ねたいことを答えてもらおう質問文を話すことができる。【発表（思・判・表現）】	※手立て2-④ 目的達成のためにそれぞれの役割ごとに尋ねたいことを答えてもらおう質問文を考える。 知りたいことがこれだからこう尋ねよう。 尋ねたいことを答えてもらおう質問文を考えることができる。【学習シート（思・判・表）】	※2-①②③学習の成果の実感 メモの書き方を知り、短文を聞いて必要事項をメモに書く。 メモには、大切なことを短く書く。 尋ねたいことをメモするポイントに気付くことができる。【学習シート（思・判・表）】

IV 本時の指導計画

1 目標及び評価規準

A	B	C	D	E
適切な声の大きさで挨拶やお礼を話すことができる。	自分たちが知りたい情報が何かを考え、電話での会話を聞きながら必要な情報をメモすることができる。	電話で会話をしながら、聞きたいことを尋ねることができる。	内容や話し方について考え、Cにアドバイスをすることができる。	自分たちが知りたい情報が何かを考え、電話での会話を聞きながら必要な情報を複数メモすることができる。
電話の相手に適切な声の大きさで挨拶やお礼を話すことができる。【知・技】	電話の相手から聞いた事柄を短くメモすることができる。【思・判・表】	電話の相手に適切なタイミングで、聞きたいことを尋ねることができる。【思・判・表】	文の構成について、声の大きさや速さ、強調したい点などの視点で工夫することができる。【思・判・表】	電話の相手から聞いた複数の事柄を短くメモすることができる。【思・判・表】

2 展開

学習内容	A	B	C	D	E
1 前時の学習の確認 (3分)	学習の目的とこれまでの学習を写真と学習計画で振り返る。	校内合宿で利用するパスについて尋ねるために電話をする。	※研究に関わる手立て	期待する子どもの姿	評価評価の場面
2 前時の学習を振り返る。	前時の学習課題と学習内容の把握 (5分)	バス会社に 電話をして 知りたいたいことを 聞きとろう。	※研究に関わる手立て	期待する子どもの姿	評価評価の場面
3 学習内容の理解 (11分)	挨拶とお礼の話し方の練習をする。	自信をもって話すことができるようになるために繰り返し練習する。	質問の話し方を練習する。	質問の原稿の構成や表現の仕方を推敲し、Cの練習の様子にアドバイスをもらうこと、電話で話すことに対する自信をもつことができるようになること。	電話での会話を聞いて、分かったことをいくつかメモする。
4 学習内容の交流 (7分)	電話のリハーサルをする。	電話をするのをAとC、メモをBとEに限定することで、友達の話し方や聞き方に注目する意識をもつことができるようになること。	Dからのアドバイスを受け入れ、話し方を試しながら練習する。	自分が考えた構成や表現の仕方をCにアドバイスする。	電話での会話を聞いて、分かったことをいくつかメモする。
5 電話をかける (10分)	電話で挨拶やお礼の言葉を伝える。	原稿に沿って話すことで、電話をすることに自信をもてるようにする。	相手の反応を聞きながら、適切なタイミングで質問をする。	自分が考えた構成や表現の仕方をCにアドバイスする。	電話での会話を聞いて、分かったことを複数学習シートにメモする。
6 振り返りを行う (9分)	全体で学習の振り返りを行う。	がんばったこと、がんばった友達、できたこと、うまくいかなかったこと、より深い振り返りを行う。	子どもの答えに対して、「なぜできた (できなかった) のか」「本時の学習をどう生かすか」を振り返りを行う。	子どもの答えに対して、「なぜできた (できなかった) のか」「本時の学習をどう生かすか」を振り返りを行う。	子どもの答えに対して、「なぜできた (できなかった) のか」「本時の学習をどう生かすか」を振り返りを行う。